



平成 28 年 12 月 15 日

各 位

上場会社名 株式会社 ミロク
 代表者名 代表取締役社長 弥勒 美彦
 (コード番号 7983)
 問合せ先責任者 常務取締役 中澤 紀明
 (TEL 088-863-3310)

「2017 中期経営計画」策定に関するお知らせ

当社は、2017 年 10 月期を初年度とする 3 ヶ年のローリングを行い「2017 中期経営計画」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 「2017 中期経営計画」策定の背景

「2016 中期経営計画」では、2005 年 10 月期の過去最高益の更新を目標に掲げ強靱な事業基盤の構築に取り組んでまいりました。その初年度である 2016 年 10 月期業績は、期中において業績予想の修正の発表（2016 年 6 月 9 日）を余儀なくされる等、業績の下振れが懸念されましたが、売上高 11,950 百万円、経常利益 918 百万円と概ね初年度計画の水準まで盛り返すことができました。

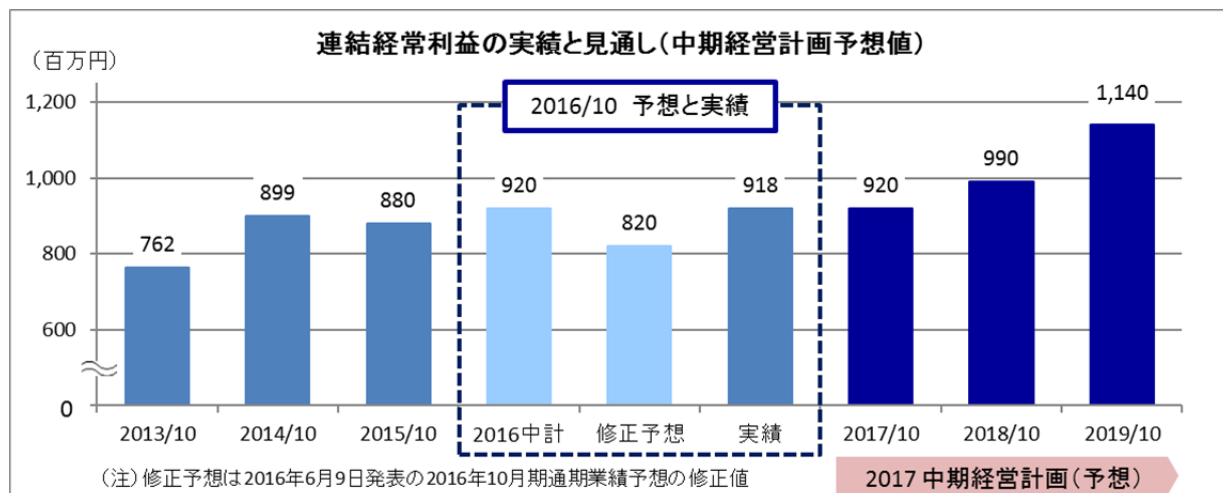
「2017 中期経営計画」につきましては、先行きが読みにくい要素がありますが、付加価値の高い高品質製品を提供する等、猟銃事業をコアとして利益を獲得する戦略を着実に進めてまいります。過去最高益の更新を目標に掲げ、強靱な事業基盤づくりにミロクグループ一丸となって取り組むべく、当中期経営計画を策定いたしました。

2. 「2017 中期経営計画」の基本方針

中長期的な基本方針としましては、主力三事業の強みをさらに向上させつつ、その強みを活かした新規事業を模索してまいります。

猟銃事業につきましては、当社の収益面のコア事業として、拡大する米国猟銃市場の需要に応える設備と技術力で、ブローニング社との関係を密に取りながら、双方の利益拡大を目指します。

また、工作機械事業では、機械やツールの品揃えの拡充と海外販路の開拓を行いながら請負加工を強化して利益確保を図り、自動車関連事業では、純木製ステアリングハンドルとその加飾技術製品を強力で推進し、主力三事業で計画利益の獲得に邁進いたします。



3. 事業別重点施策

① 猟銃事業

主力の米国市場は、景気も好調を持続し、高水準の需要が続いています。また欧州市場についても高級品志向が強まる等、当社を取り巻く事業環境は堅調に推移しております。

このような環境のもと、当社最大顧客であるブローニング社は、市場占有率拡大という成長戦略を掲げており、当社としましては、2016年に新設した工場の最大活用と、設計及び製造の品質向上、工程の自動化による生産技術力の向上等、諸施策に積極的に取り組んでまいります。また、製品の付加価値において重要な彫刻技術における新たな技術導入も模索し、あわせて国内販売も推進し、利益獲得に向けて注力いたします。

中長期的には、営業力、資材調達力、開発機能強化等の名目でブローニング社との連携強化を図りグローバル化を進めてまいります。当然ながら、ロスコスト等の削減による原価低減を強力に推し進め、グループのコア事業として強靱な経営基盤構築に尽力いたします。

② 工作機械事業

工作機械事業は、自動車業界に向けたガンドリルマシンの販売拡大は厳しい状況にあります。

このような環境のもと、機械部門では小径ガンドリルマシンの開発により新たな顧客獲得を目指し、ツール部門では小径ガンドリルツールの開発を行い、新規顧客の獲得と既存顧客における一層のシェアの拡大に努めてまいります。さらに海外メーカーとの連携及び商社の有効活用による営業強化を図るとともに、請負加工部門では需要に応じた加工設備の見直しを行い、あらゆる径の深孔明けニーズに対応してまいります。また、引き続き全社的に原価低減に努め、売上及び利益の拡大に努めてまいります。

③ 自動車関連事業

自動車関連事業は、3期連続の売上減少を余儀なくされましたが、その要因の一つである当社製品採用車種の海外生産移管への影響は沈静化してまいりました。引き続き原価低減と固定費削減に注力するとともに、2016年に量産を開始した加飾ハンドルは、生産も安定し、純木製ステアリングハンドルに次ぐ製品として利益に貢献できる見込みであります。

このような環境のもと、自動車関連分野では、引き続き新素材とアイデアと新技術を融合させて、市場競争力の高いステアリングハンドル等の製品開発を推進してまいります。2016年に新設した樹脂成形工場では、既に加飾ハンドルの樹脂部品の生産が開始され、2017年には純木製ステアリングハンドルの樹脂部品の生産、また2018年に量産開始となる新製品の生産も予定しております。

また、自動車関連以外の分野では、加飾部品や木製品の案件を具体化することができました。これら案件の育成・拡大とともに新たな案件の開拓活動も進め、ハンドル以外の事業展開にも積極的に取り組んでまいります。

4. 数値計画（連結）

単位：百万円

	2016/10期 実績	2017/10期 予想	2018/10期 予想	2019/10期 予想	(ご参考：過去最高益) 2005/10期(実績)
売上高	11,950	12,400	12,860	13,420	15,396
営業利益	876	840	900	1,040	1,361
経常利益	918	920	990	1,140	1,641
当期純利益	567	580	630	720	1,028

※上記の当期純利益とは親会社株主に帰属する当期純利益です。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上